

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079400190		
法人名	有限会社 亀ハウス		
事業所名	グループホーム なごみ苑		
所在地	〒822-1201 福岡県田川郡福智町金田987番地		Tel 0947-48-3222
自己評価作成日	令和06年01月28日	評価結果確定日	令和06年03月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		Tel 093-582-0294
訪問調査日	令和06年02月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設長が交代し1年が経ちました。前任者が築いた取り組みは継続し、新たななごみ苑を作っていく為、日々勉強中です。コロナ禍も落ち着きを見せ始めたので地域との交流も再開し、どうすれば利用者様が楽しく安心した生活を送れるのか、施設全体で考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福智町役場や交番、銀行、コミュニティセンターが近い利便性の良い場所に21年前に開設した定員27名のグループホームである。元病院を改築した建物を、こまめな清掃と整理整頓、職員の創意工夫で居心地の良い家庭的な環境に作り替えている。地区の組に加入し、近くの商店から物品を購入したり、地域の文化祭に作品を出展する等、今できる地域交流に努めている。誕生会や季節毎のイベントは利用者の大きな楽しみであり、「なごみ苑だより」を毎月家族に送付して利用者の笑顔の暮らしぶりを伝え、大変喜ばれている。新施設長の下、ネット環境を整え、Web研修受講やユーチューブなどの活用が可能となり利用者の余暇の充実にも繋がっている。また、苑用のスマートホン購入や脱衣所のヒーター設置等、職員の意見や要望に迅速に応え、実現していく行動力に職員からの信望も厚い。各ユニットに長く勤める職員が柱となって職員が一つにまとまり、利用者一人ひとりと丁寧に寄り添っている、グループホーム「なごみ苑」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11.12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を事務所前に掲示し、毎日朝礼後全員で唱和し実践につなげている。	ホーム独自の理念を見やすい場所に掲示し、毎日の朝礼時に唱和して理念を共有している。「地域の人々との交流を図り、ホームの理解を高めます」を理念の一つに掲げ、町の中心部にある地の利を活かした地域との関わりを大切にしながら、利用者の穏やかな暮らしの支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の組に加入して利用者を地域の行事に参加出来る利用者は参加している。そして苑で使用する物品は近くの商店街で購入し、交流を深めている。	地区の組に加入し、地域の文化祭への作品の出展等、今できる地域との交流に努めている。ホームで使用する食材や物品は、出来るだけ地域の商店で購入し、地域交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で区長、民生委員、町職員に苑の活動を報告し地区の行事や祭りに参加する機会を設け相互の理解を深め利用者と共に楽しみ支援してもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、利用者の現状、介護度、行事予定、事故報告、ハヤリハット等を区長や民生委員、町職員に報告し意見を頂きサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、家族、区長、民生委員、町職員の参加を得て2ヶ月毎に開催している。ホームの運営や取り組み、利用者状況、事故・ヒヤリハット、行事予定等について報告を行い、参加委員からの意見や情報提供を受けて検討し、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の福祉課の担当者とは推進会議の時に報告し施設の実情や取り組みについて理解して頂いている。	施設長は、ホームの空き状況や事故等を報告し、疑問点や困難事例の相談を行う等、行政と連携を図っている。運営推進会議に福智町職員の参加があり、ホームの現状を伝え、助言や情報提供を受け、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止委員会を定期的に行い、その中で具体的な事例を出し、職員会議の中で意見を出し合い実践につなげている。	施設長や各ユニット管理者参加の下、虐待防止委員会を3ヶ月毎に開催し、同時に身体拘束の研修を行っている。委員会の中で、身体拘束に関する具体的な禁止行為について事例を挙げて話し合い、職員一人ひとりが理解して、身体拘束をしない、させないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の防止については定期的な勉強会や町が開催する学習会で学ぶ機会を繰り返し作ると共に定期的にアンケートを実施し、自身のケアを振り返る機会を作り、意識することにより虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人に関する制度については現在継続的な学習ができていない。今後、研修や職員勉強会の中で学ぶ機会を作り、職員の理解や実践につなげていく。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する資料を用意し、利用者や家族から相談があれば、関係機関と相談して、制度の活用に向けて支援できる体制を整え、利用者の権利や財産が不利益を被らない支援に取り組んでいる。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設け、職員に周知していく事を期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約時に重要事項の説明や施設での生活について質問、疑問等十分説明をし理解・納得してもらっているし継続的に苑内での生活状況を苑だよりと共に送付している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が自由に意見、要望を表せるために訪問時や外出時に対話する機会を作っていく、また、外部評価の中の家族の要望等も運営に反映させたい。	日常会話の中から利用者の意見や要望を把握し、職員間で情報を共有している。職員は、面会時や電話等でコミュニケーションを取りながら、家族の意見や要望を聴き取り、ホーム運営や介護サービスに反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や運営に関する提案を毎月の勉強会で設けている。ただ、職員全員の意見や提案がしやすい環境作りは必要だと感じている。	職員会議は、月1回出勤職員が多い日に開催し、その日の日勤者が参加している。職員の意見や要望、気になる事等の提案を受けて話し合い、ホーム運営や業務に反映できるよう努めている。施設長は、ネット環境の整備や苑用スマートホンの購入、脱衣所のヒーター設置等、職員の要望にスピード感を持って対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者には個々の職員の努力や実績、勤務状況を報告しているがまだ職員が向上心を持って働ける職場環境になっていない。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に排除してはいない。職員についても自己実現の権利は保証されるよう配慮し努力している。	職員の処遇を少しずつ改善し、職員一人ひとりの事情に柔軟に対応し、職員が働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。施設長や主任が小まめに職員の話聞いて対応し、3ユニットの大所帯であるが、職員間の関係が良く、離職も少ない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の苑での勉強会で人権等の啓発に取り組んでいけるように議題に挙げる様に努めている。	利用者の人権を尊重する介護サービスについて、職員間で話し合い、言葉遣いや対応に注意している。また、ホームの勉強会の中で、利用者の人権について学ぶ機会を設け、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひとり一人のケアの実際と力量を把握しその時々に応じた研修を受けられるよう取り組んでいる又、県や町の主催する介護の研修会に職員を積極的に参加させるようにしているが、介護職員の不足でおもうように進んでいない。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は管理者や職員が同業者との相互訪問等が全くできていない。そのため今後の課題として取り組んでいきたい。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に本人、家族、友人等を含めて今までの生活歴、病歴等の確認をし今後の当施設での生活に早くなじむように努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも不安や要望等を話し合い、今後の苑での生活についての方針を説明し安心して頂ける様努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との話し合いの中で十分な説明を行い今、現在、家族と本人がどういうサービスを必要としているのか、当苑でできることできないこと等を説明し判断してもらっている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の心身の状況を把握し出来る事はやって頂き、出来ないことは職員が補い一緒に行うなど、日頃の会話やケアの中で、その方に応じた話題やケアを行うことで、より良い関係を築いていける様努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の苑だよりや近況報告書等で日頃の様子や心身の状態を伝え、必要時は電話連絡を行い、ケアの方針を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの本人の生活暦をしっかり把握し、できるかぎりの支援を行えるよう努力していると共に苑日より、近況報告を定期的に郵送している。	入居前の利用者の生活環境や人間関係を聴き取り、出来るだけ馴染みの関係が継続できるよう取り組んでいる。新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら、家族、親戚、友人、知人の面会、家族との外出等、長年培ってきた関係が、ホーム入居によって途切れないよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を職員が把握し苑内での生活を安全に楽しく過ごせるように居室の位置も配慮し職員も利用者同士仲良く過ごせるような環境を作り支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談や支援に努めている。現在は家族や友人等からの相談等がない限りは相談や支援ができていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとり一人の思いや希望、意向の把握に努めているが困難な場合は家族やユニットスタッフで話し合い本人本位に検討している。	長く勤めているベテラン職員が多く、利用者とのコミュニケーションを取りながら、一人ひとりの思いや暮らしの希望の把握に努め、得られた情報は職員全員で共有している。自己選択、自己決定が難しい利用者には、家族に相談しながら職員間で話し合い、利用者の思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人、家族等に聞き取りを行い生活歴や家族との関係などを考慮し今後のサービス利用に活かしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、心身状態の確認を行うと共に、職員間で情報共有する事で利用者の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当スタッフ、ユニットスタッフで課題やケアのありかたについてカンファレンスを行いその上で本人、家族、必要な関係者と話し合い意見やアイデアを反映し介護計画を作成している。	職員は利用者や家族の意見や要望を聴き取り、カンファレンスやモニタリングで、課題やケアの在り方について話し合い、関係者と相談しながら3ヶ月毎に介護計画を作成している。また、利用者の状態変化に合わせて家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の個別記録を記入することでユニットのスタッフ間で情報を共有し、意見交換することで、次回の介護計画に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて柔軟なサービスを提供できるようにスタッフ間で意見を出し合い、月々の勉強会で提案し支援に繋げていける様努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議や家族或いは職員との会話のなかで地域資源等色々な情報を頂き苑での生活に役立てる様努力している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に希望する医療を受けられるようまたかかりつけ医に相談しながら支援している。	入居時に利用者や家族の希望を優先して主治医を決めている。協力医療機関医師による月2回の往診と訪問看護師、介護職員の連携で安心の医療体制が整っている。また、他科受診が必要な場合はホーム職員が対応し、結果を家族に報告し、利用者の医療情報を家族と共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問している看護師に日々の関わりの中で得られた情報や気づきを伝え相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院関係者と情報交換や相談を行い安心して治療できるように努めていると共に施設では居宅療養管理の医師、看護師との情報交換を行い急変時の対応に援助を頂いている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から本人、家族等には事業所ですることできないことを十分に説明し方針を共有している。医師、看護師との連絡も密にとっている。但し地域の関係者についてはできていない。	契約時に、利用者や家族に対して、重度化や終末期に向けた方針について説明し、了承を得ている。利用者の重度化が進むと主治医に相談しながら家族と密に話し合い、関係者で方針を共有し、一日でも長くホームで過ごせる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えた定期的な訓練は現在あまり出来てはいない。今後は医師、看護師に指導を受け実践力をつける必要がある。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については当苑だけでなく地域の住民、町、全体で考え取り組む必要がある。また、避難確保計画書を作成し災害の規模、種類によって全職員と話し合い理解してもらっている。	日中想定避難訓練を年2回実施している。1回は消防署の参加を得て、通報装置や消火器の使用方法を確認し、避難経路、一時避難場所の確保を行っている。2つの河川に挟まれた低い土地にあるため、水害時の避難場所を検討している。また、非常食として、缶詰のパンや麺類を準備している。	夜間想定、水害、台風、地震想定訓練にも取り組んでいく事を期待したい。また、地域との協力体制についても、運営推進会議を通じて検討していく事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの利用者の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない様に言葉かけやケアを行えるよう努めている。	利用者の人尊重とプライバシーを守る介護の在り方を、職員会議で話し合い、職員一人ひとりが意識して、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護の実践に取り組んでいる。また、言葉遣いや対応について、気になる時には注意し合い、利用者がホームで安心して穏やかに暮らせる支援に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での会話やケアの中で利用者の思いや希望を聞き出せるように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりのペースを大切に一日を過ごして頂けるよう努めて、職員本位にならないように気を付けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる方もいるが、そうでない方は職員が本人の要望を聞いたり、気を付けながら支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に楽しく会話をしながら食事をしている、片づけや食器拭き等もできる利用者とは一緒に行っている。好きな食べ物等の話もしている。	ホームの厨房で作る家庭的で美味しい料理を提供し、利用者の能力に合わせて配膳や茶碗拭きを手伝ってもらっている。赤飯やパンの日、月1回の誕生会、一緒に作って食べるお好み焼きや焼きそば、たこ焼き等、「食」を楽しめるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や食べ方を観察し、言葉かけを、食べやすい様食形態を変えたりしながら、バランス良く食べて頂ける様支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや、誘導、ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。また、歯科往診の際にも口腔内の状態を診てもらっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表等を使用し本人の排泄パターンや能力を把握しその人に合わせた支援を行っている。	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、職員2人介助でトイレでの排泄支援に取り組んでいる。夜間は、トイレ誘導、ポータブルトイレ、パット、リハビリパンツ、オムツ等、利用者一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便のチェックを行いその人の状態に応じた食事内容や日常の運動量等にも気を付けて便秘の予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴の支援をするようにしているが病院受診や本人の体調、職員の状況等で変えている。	入浴は、利用者の体調や希望に配慮して、週2～3回のペースで行っている。冬場の入浴拒否の原因の一つが脱衣所の寒さだったこともあり、ヒーターを設置して入浴前に脱衣所を温めることができている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりその時々状況や体調により、環境や室温、寝具などに気を付け、気持ちよく休めるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援については職員が薬を管理し、用法、容量のチェックをしている。服薬後の症状の変化等もケース記録に残し、変化があった場合はその都度医師や看護師と連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気分転換等の支援は個人差はあるができています。嗜好品については中身により制限があります。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援については本人の身体状況や天候、スタッフにもよるが出来るだけの支援をしていきたいと考え計画している。今は感染状況を見ながら支援を考えている。	外出を控えていたが、新型コロナ5類移行に伴い、敷地内の散歩や桜やひまわり等、季節の花見に出かけ、利用者の気分転換を図っている。また、室内で行うレクリエーションに力を入れて取り組み、利用者が楽しく過ごせる支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の理解度にもよるが希望や力に応じて所持してはいるが使い方については職員と共に考えている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望により電話や手紙を自分でかけたり、書いたりあるいは職員が支援をすることでなんとか出来ている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は利用者が居心地よく過ごせるよう観賞用の魚や季節の草花や壁飾りを一緒に作成し飾る事で季節を感じられるように工夫している。	病院を改築した建物であるが、熱帯魚が泳ぐ水槽、季節の生花、壁には利用者と職員が制作した作品を飾り、職員の努力によって、季節感や生活感の溢れる温かな雰囲気的生活環境となっている。また、換気、清掃、整理整頓を小まめに行い、臭いのない清潔感のある共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりが好きな場所で過ごせる様、ゆっくりテレビが観れる場所や利用者同士で話ができる空間をつくり、思い思いに過ごして頂いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談しながら居心地よく過ごせるよう配慮している。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者が使い慣れた家具や仏壇、身の回りの大切な物を、家族の協力で持ち込んでもらい、利用者が安心して穏やかに過ごせるように支援している。また、室内は清掃が行き届き、整理整頓され、利用者が居心地良く過ごせる居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「出来ること」「わかること」を把握し、スタッフ間で、その方に合った支援が出来る様意見を出し合い、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れる様支援している。		